

Street Life Ochanomizu

ストリートライフ お茶の水 調査報告書 (概要版)



お茶の水茗溪通り会
日本大学工学部建築学科都市計画研究室 (泉山ゼミ)
一般社団法人ソトノバ



ソトノバ .place
sotonoba.place

1. 背景及び目的

(1) 長年目指す歩行者天国化

お茶の水は、湯島聖堂やニコライ堂をはじめとする歴史的な宗教施設、多くの大学や専門学校などの教育施設、総合病院や専門病院などの医療施設が集まる、まれに見る文教の街である。また、茗溪通りでは、現在、歩行者交通量の多い茗溪通りを8-9時(平日のみ)、12-13時、22時-5時の間で歩行者天国にしている。さらに、恒常的な歩行者天国化が検討され、街路の安全性や滞在性の向上が期待されている。



図1-1. 日常の茗溪通り

(2) 社会実験の目的

お茶の水・茗溪通りにおいて、①お茶の水アートピクニック(休日の歩行者天国イベント)実施時(10/8・9)、②交通規制実施時(10/15・16)③滞留空間創出時(10/22・23)、の3つの状況に対し、A. 荷捌き車、歩行者への影響、B. 滞留空間創出等の実験を実施し、滞留行動の効果検証を行うことで、休日における恒常的な歩行者天国化の可能性を明らかにする。

- ①お茶の水アートピクニック(休日の歩行者天国イベント)実施時
お茶の水アートピクニック(休日の歩行者天国イベント)を実施した場合の歩行者交通量及び滞留行動を把握する。
- ②交通規制実施時
一般車規制を行い、歩行者天国化をした場合の荷捌き車への影響、歩行者の交通量や滞留行動を把握する。
- ③滞留空間創出時
歩行者天国化を行い、日常的な滞留空間を創出した場合の歩行者交通量及び滞留行動を把握する。利用者や周辺店舗への意識調査を行い、茗溪通りに求められる空間を明らかにする。



図1-2. お茶の水アートピクニックの様子

(3) 調査方法

アンケート調査、荷捌き調査、歩行者交通量調査、滞留行動(スキャン)調査、滞留行動(マッピング)調査を実施することで、道路空間の活用に対する意向の把握や荷捌きへの影響、滞留行動の変化を把握する



図1-3. アンケート調査



図1-4. 荷捌き調査



図1-5. 歩行者交通量調査



図1-6. 滞留行動(マッピング)調査

2. ストリートライフお茶の水について

(1) 滞留空間のコンセプト

お茶の水は学生街として発展してきた。また、神田明神や湯島天神など文化的な施設も多く、多様な人が訪れる。御茶ノ水駅の改札前では、待ち合せや会話をする人などが見られる。そこで、御茶ノ水駅前の茗溪通りに「くつろぎ」「ひと休み」「気分転換」をコンセプトにした3タイプの滞留空間を設け、場所ごとに短時間から長時間の滞在まで対応し、アート要素やお茶の水文化の発信を行う要素を取り込んだ滞留空間とすることで、茗溪通りの豊かさを支え、「お茶の水の玄関口」としてふさわしい場を創出する。将来的には、茗溪通りを恒常的な歩行者天国化し、公園のように利用できる空間とすることを旨とする。

「くつろぎ」

社会実験の範囲内は芝生、植栽、ローチェア、ローテーブルを設置し、長時間滞在を狙い、利用者が落ち着いて会話ができる「くつろぎ」の空間とした。



図2-1. 「くつろぎ」の滞留空間

「ひと休み」

デザイン性の高い什器を使用し、お茶の水文化の発信をするため、パネルの展示を行うことで、「ひと休み」をしながら、お茶の水文化を体験できる空間とした。



図2-2. 「ひと休み」の滞留空間

「気分転換」

周辺にカフェなどの飲食店があることから、椅子や机を設置し、テイクアウトした商品を持ち寄って「気分転換」ができる空間とした。



図2-3. 「気分転換」の滞留空間

(2) 社会実験の運営体制

本社会実験は、お茶の水茗溪通り会、日本大学工学部建築学科都市計画研究室(泉山ゼミ)、(一社)ソトノバが連携し、社会実験実施者として実施する。お茶の水茗溪通り会を責任者とし、日本大学工学部建築学科都市計画研究室(泉山ゼミ)とソトノバが社会実験の企画、運営、調査を行う。

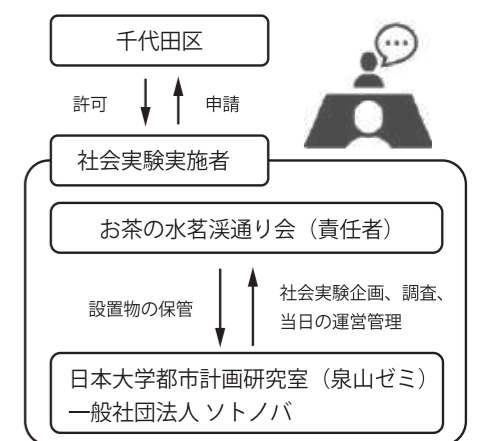


図2-4. 運営体制



図2-5. アコーディオンベンチの設置



図2-6. 展示パネルの設置



図2-7. 調査の様子

3. アンケート調査の結果

(1) アンケート調査概要

2022年10月15・16日、22・23日に実施したストリートライフお茶の水において、本社会実験実施中に茗溪通りにおいて滞留行動をしていた人を対象に、茗溪通りに求められる空間を明らかにすることを目的としたアンケート調査を行った。回答は計322件集まった(15・16日:114件、22・23日:208件)。

●回答者属性

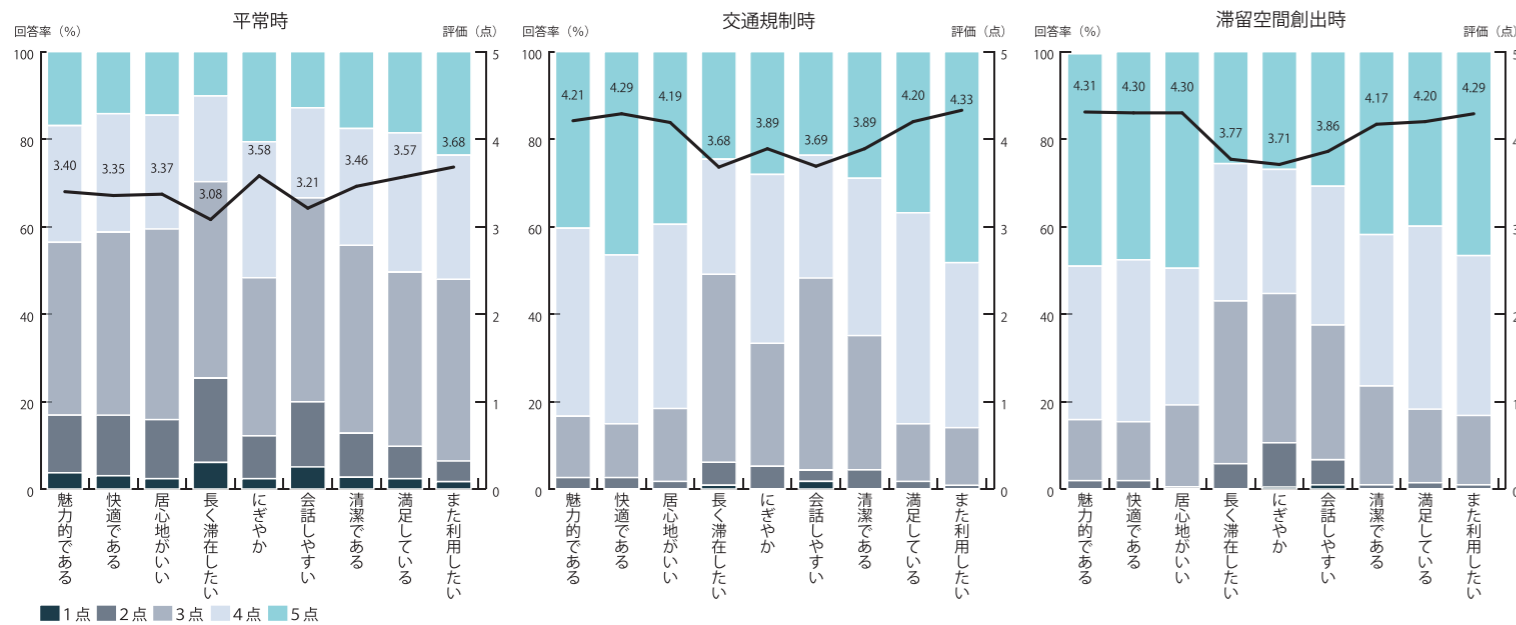
20代(84件, 26%)を中心に幅広い年代から回答を得た。また、回答者は23区内(134件, 43%)に居住する人が多く、来訪手段の多くは電車(252件、

●当日の様子

アンケート調査当日の来訪目的では、買い物(55件, 17%)が最も多く、飲食や通勤・通学等の日常的な目的が多く見られた。また、乗り換えを含む通り返り(50件, 16%)や散歩・散策(47件, 15%)も多く回答を集めたことから、茗溪通りの通行需要の高さがわかる。

●平常時、交通規制実施時(10月15・16日)、滞留空間創出時(10月22・23日)の印象

茗溪通りについての印象を、平常時と回答当日に関して9つの項目に5段階で評価を得た。滞留空間の創出等を実施しない平常時と比較して、交通規制実施時・滞留空間創出時のいずれもよい印象を受けている。



(2) 今後の茗溪通りの可能性

恒常的な歩行者天国化や滞留空間創出の希望を問う設問では、いずれも約9割の人々が望むと回答した。望む理由として歩行の安全性向上や憩いの場となることが挙げられた。一方で、送迎等の自動車利用の利便性やゴミの問題を心配する声も見られた。茗溪通りにおける活動の可能性を問う設問では、休憩・会話や飲食、読書など利用者の自発的で小規模な活動が約4割を占めた(図3-19)。一方で、市場・マーケットや地域の祭りなど、商店街や地域の一体的な活動の場としての可能性を答えるものも見られた。



図3-1. アンケート調査の様子

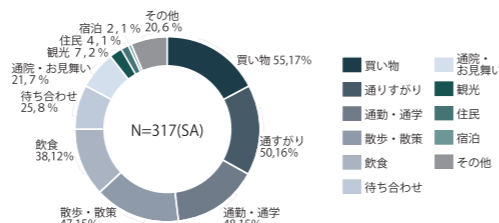


図3-2. 調査日の来訪目的

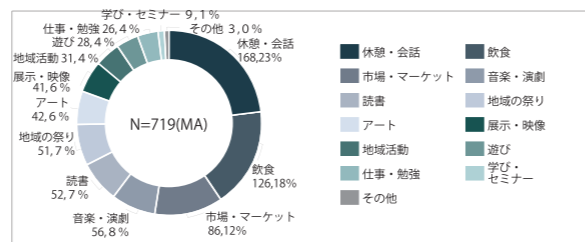


図3-4. 歩行者天国化により想定される茗溪通りでの活動

4.10/15における荷捌き調査の結果

(1) 飲食関係の駐停車

飲食関係車両の駐停車は、紅梅通りのお茶の水仲通り側とお茶の水仲通りに駐停車が多かった。駐停車は、10時に最も多く、その後14時ごろまで減少傾向、15時以降に駐停車が増加傾向であることが明らかとなった。

駐停車時間に注目すると、10・11時台、15・16時台と10分以上の駐停車台数が増加する時間があることがわかった。

(2) 物販関係の駐停車

物販関係車両の駐停車は、飲食関係車両と同様に紅梅通りの瀬川ビル裏とお茶の水仲通りに多く分布していた。その中でも、茗溪通りへ搬入する際にはお茶の水仲通りを通過していくケースが多いことが明らかとなった。駐停車は、10時に最も多く行われており、その後夕方にかけて減少傾向にあった。

駐停車時間に注目すると、午前中に10分以上30分未満の駐停車が多く、午後にはほとんどが10分未満の駐停車であった。

(3) その他の駐停車

タクシー、乗用車などの「その他」の駐停車は、明大通り、紅梅通り、お茶の水仲通りに満遍なくあるが、特に紅梅通りの中央に集中していた。

駐停車時間に注目すると明大通りにおける駐停車時間は30分未満の駐停車が多く、長時間駐停車する場合には、紅梅通りやお茶の水仲通りに駐停車がある傾向にあった。

駐停車がある時間帯に注目すると、多い時間帯では20台程度、少ない時間帯でも10台程度の駐停車がある。



図4-14.10/15の10時から18時におけるその他車両の駐停車

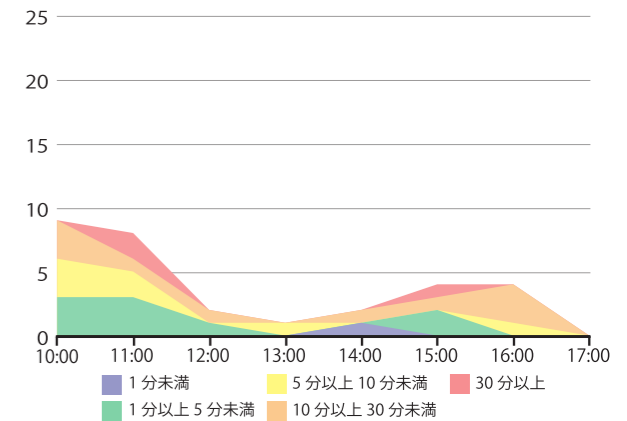


図4-10.10/15の10時から18時における飲食関係車両の荷捌き

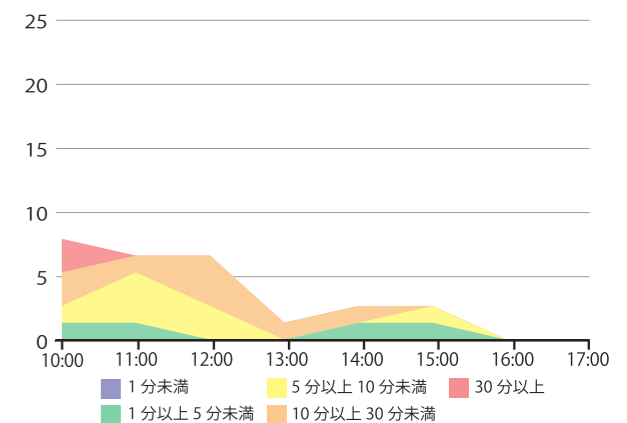


図4-12.10/15の10時から18時における物販関係車両の荷捌き

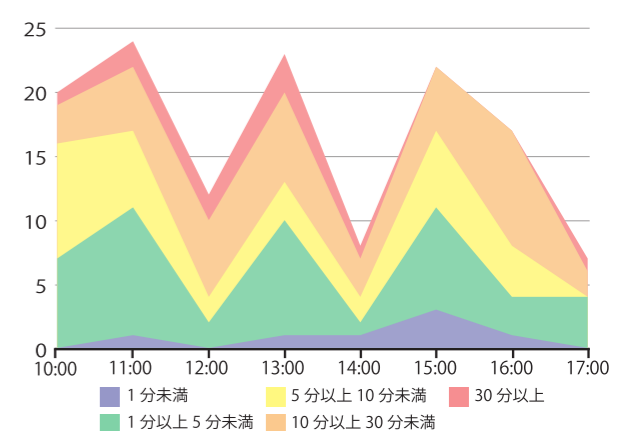


図4-14.10/15の10時から18時におけるその他車両の駐停車

5. 歩行者交通量調査の分析結果

(1) 歩行者交通量調査の結果

● 10/8 (土) お茶の水アートピクニック実施時

最も歩行者交通量が多い地点2は33210人、最も歩行者交通量が少ない地点6は2106人である。地点2において歩行者交通量が増加する時間は、12時-14時台、16時-17時台で4000人を超える。

● 10/15 (土) 交通規制実施時

最も歩行者交通量が多い地点3は30576人、最も歩行者交通量が少ない地点6は1290人である。地点3において歩行者交通量が増加する時間は、12時-13時台で4000人を超える。

● 10/22 (土) 滞留空間創出時

最も歩行者交通量が多い地点3は24924人、最も歩行者交通量が少ない地点6は1440人である。地点3において歩行者交通量が増加する時間は、17時台で3500人を超える。

(2) 歩行者交通量調査のまとめ

土曜日の歩行者交通量を比較すると、お茶の水アートピクニック実施時、滞留空間創出時、交通規制実施時の順で歩行者交通量が多くなる。各日の歩行者交通量調査を通して、地点2と地点3が歩行者交通量が多くなる傾向がある。一方で、地点6と地点9は歩行者交通量が少ない傾向がある。また、茗溪通りを歩行者天国化することで、ベビーカーを押して歩く歩行者や車椅子利用者、車道に広がって会話をしながら歩く歩行者の様子が見られたことから、歩行者天国化に伴う歩行者空間拡大の需要が高いことがわかった。



図5-1. 歩行者交通の様子

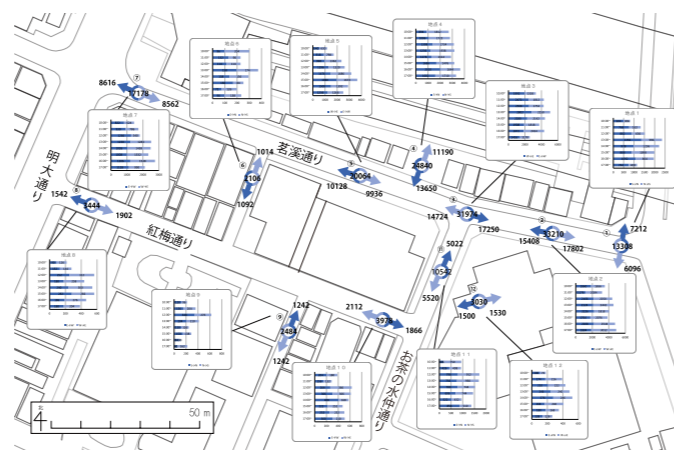


図5-2. 土曜日における各地点の調査結果



図5-3. 土曜日における各地点の調査結果



図5-5. 土曜日における各地点の調査結果



図5-4. 滞留空間と歩行者交通

6. 滞留行動 (スキャン) 調査の分析結果

(1) 滞留行動の発生箇所

滞留行動の発生個所に着目すると、いずれの日程においても御茶ノ水駅の改札前やサンクレール等の民地に集中していた。また、交通規制のみを行った10月15・16日には車道での滞留行動は少なかった一方で、お茶の水アートピクニックが開催されていた8・9日及び交通規制に加えて滞留空間の創出を行った22・23日には、滞留空間の設置した地点を中心に多くの滞留行動が見られた。



図6-1. 滞留空間創出時の様子

(2) 滞留行動の内容

滞留行動の内容に着目すると、御茶ノ水駅前ではスマホや会話、待つ等の行動が特に多く見られ、待ち合わせの場として利用されていることがわかる。また、創出した滞留空間やサンクレールのベンチを利用した食べるや一休みする、会話なども多く見られることから、滞留空間への需要の高さが考えられる。



図6-2. 10月22日における滞留行動の分布

7. 滞留行動（マッピング）調査の分析結果

（1）地点1（旧サンロイヤルビル前）

●滞留行動

滞留行動に着目すると、会話 60 人、写真を撮ると一休みが 46 人であった。また、食べる 10 人、飲む 7 人と飲食に関する行動も見られた。

●滞在時間

滞在時間に着目すると、1～5分が 79 人と短時間の滞在が比較的多い一方で、10分～30分が 37 人、30分～1時間以上が 16 人と長時間での滞在も見られた。

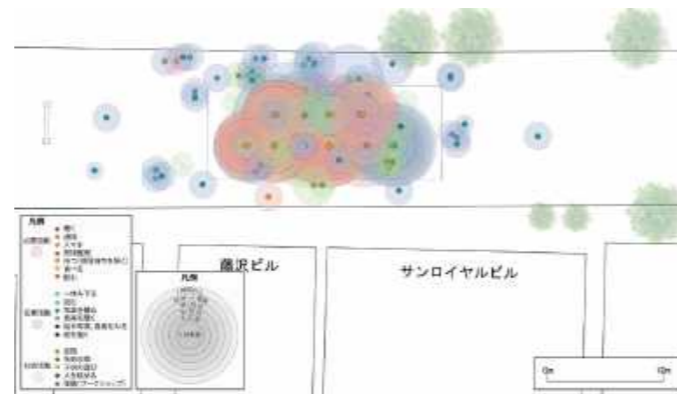


図7-1. 地点1（旧サンロイヤルビル前）における位置と行動及び滞在時間

（2）地点2（レモン画翠前）

●滞留行動

滞留行動に着目すると、会話 60 人、写真を撮ると一休みが 46 人であった。また、食べる 10 人、飲む 7 人と飲食に関する行動も見られた。

●滞在時間

滞在時間に着目すると、1～5分が 79 人と短時間の滞在が比較的多い一方で、10分～30分が 37 人、30分～1時間以上が 16 人と長時間での滞在も見られた。

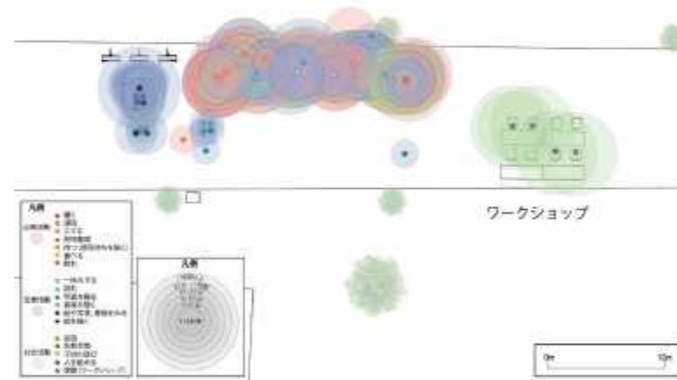


図7-2. 地点2（レモン画翠前）における位置と行動及び滞在時間

（3）地点2（丸善前）

●滞留行動

滞留行動に着目すると、会話 124 人、スマホが 88 人であった。また、一休みが 37 人、待つ 15 人であり、駅前での待ち合わせに利用されていたと考えられる。

●滞在時間

滞在時間に着目すると、1～5分の 188 人が最も多く、駅前での待ち合わせに利用されていたことが推測される。また、5～10分も 67 人と滞在時間は短い傾向にある。

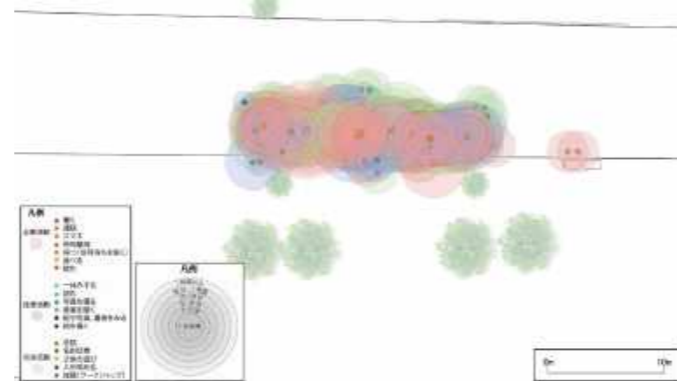


図7-3. 地点2（丸善前）における位置と行動及び滞在時間

（4）地点3（サンクレール前）

●滞留行動

滞留行動に着目すると、多様な行動が見られたことがわかる。イスとテーブルをセットで置いていたことで、絵を書くなど他の地点では見られない行動も見られた。

●滞在時間

滞在時間に着目すると、1～5分が 123 人と最も多い一方で、30分から1時間は 11 人、1時間以上も 4 人と長時間の滞在時間が見られ、滞在時間にばらつきが見られた。

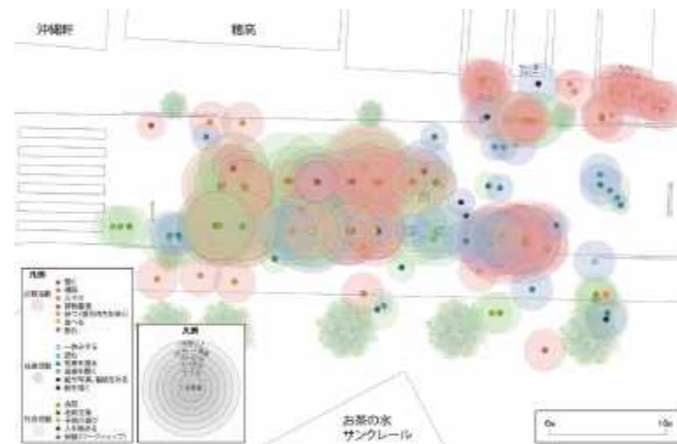


図7-4. 地点3（サンクレール前）における位置と行動及び滞在時間

8. 提案

（1）歩行者空間の拡大

茗溪通りで現在実施している昼の時間帯における歩行者天国化は 12 時 -13 時の 1 時間と短時間のため、歩行者は歩行者天国が実施していることに気づいていない。そのため、歩行者天国化の実施時間が増加することでより歩行者天国化の効果が上がる可能性がある。12 時 -16 時に歩行者天国の実施時間を延長し、歩行者空間を拡大することで、週末においては特に高齢者や子供にとって安全性の高い道路空間を提供することができると思われる。

（2）滞留空間の創出

アンケート調査では、歩行者天国化を実施し滞留空間の創出を望む声も多かった。実際に滞留空間を創出した際には、待ち合わせなどの利用者が多く、読書や飲食、会話を楽しむような滞留行動も見られた。このことから、滞留空間の需要が高く、滞留空間を創出する必要がある。また、椅子・机をセットで設置することで、待ち合わせだけでなく、飲食や会話など多様な滞留行動を生み出すことができると考えられる。

（3）交通マネジメント

荷捌きについては、茗溪通りの交通規制を実施した際に、ワゴンでの荷捌き経路が伸び駐停車が長時間化する。特に、10 時台には物販、飲食関係の荷捌きが増加し、16 時、17 時台にも飲食関係の荷捌きが増加することから、歩行者天国化を行う場合に許可車の交通許可を行うなどの対応が必要である。

（4）運営体制の構築

運営の課題については、第一にゴミのポイ捨てや自転車による接触の危険性がある。第二に歩行者天国化する際のバリケードの開閉や椅子や机などの什器の設置などの運営の負担である。これらの課題を解決するために、歩行者天国化を行う際の警備体制の強化や運営方法の検討と組織体制の検討が必要である。加えて、沿道店舗の協力が必要不可欠である。



図8-1. 交通規制の様子



図8-2. 御茶ノ水駅における滞留空間の様子



図8-3. 自転車の乗り入れ

小休憩できるところが少ないので、あるとありがたい



学校の後などに休憩したいと思うことがある



お店に人が多くて、テイクアウトしかできないときに便利だと思う。

外で休める場所がないので欲しい

たまり場になるのはいやだ

Street Life Ochanomizu

利用者から寄せられた声



静かにゆっくり過ごせる場所が欲しい

待ち合わせのときに散策ができると楽しそう

道路と違ってのんびり歩ける

塾の空いた時間に気分転換ができる



ストリートライフお茶の水 調査報告書（概要版）

発行 2023年 4月

お茶の水茗溪通り会

一般社団法人ソトノバ

日本大学工学部建築学科都市計画研究室（泉山ゼミ）

●プロジェクトメンバー

泉山壘威 一之瀬大雅 江坂巧 染矢嵩文 長谷川千紘 福井勇仁 溝口萌

●調査員

今村瑶子 太田拓翔 小栗由梨乃 小野田鼓 小野寺瑞穂 木村隼大

五味桃花 久志木ひま梨 佐野充季 菅原悠希 鈴木一輝 竹中彩

土田綾美 飛田龍佑 中村佳乃 畑樹弥 深津壮 前田洋伯

松田晃太 水信夏穂 森本あんな 米田康平